



ガンリンもガスもリングの劣化に注意する



ストーブもランタンも接続部分には、必ずと言っていいほどリングが使われている。この部分が劣化して亀裂が入ると、ガンリンやガスが漏れて非常に危険である。メンテナンス時には必ずチェックし、早めに交換しよう。



写真のEPIガスは真ん中のバーナーを取り外せる。作業をしやすくするために外してしまおう。時計と反対にまわすと外れる。



ガスストーブはススはつきにくい、それでもないわけではない。吹きこぼしてバーナーの穴が詰まっていることもある。

ガスストーブ



専用の針をバーナーの穴に数回差し入れて掃除をする。これでもつまりが解消されない場合はショップでの修理だ。



バーナーが取れると全体を分解することができる。普段は掃除できない裏側の部分まできれいにしよる。



ガンリンストーブのポイントとなるポンプ部分。ここを取り外す。固着している場合にはレザーマンなどのプライヤーを使っても良いだろう。



初めは各パーツを分解していく。まずポンプを本体から外す。ここは素手で簡単に取り外すことができる。



オプティマスの別体式ストーブ。今回はこれをメンテナンスする。

ガンリンストーブ



先端のパッキンにも塗ってやる。定期的に塗っていれば、パッキンが急激に劣化することはない。



ポンプレバーのシャフト部分にオイルを塗ってやる。こうすることでスムーズにレバーが動くようになる。



古いオイルを拭き取ってやり、オイルパッキンの劣化をチェックする。ひび割れや磨耗があると圧が上がらず着火不良を起こす。そうなっていたら交換するように。



ニクワックス/ダウンウォッシュ 1575円
ニクワックス/ダウンブルーフ 1260円
ダウンのウェアや寝具用の洗剤・防水剤 ③



コルマン/リペアメント 600円
ポンプの密着させ漏れを防ぐ。②
内部を密着させ密着漏れを防ぐ。②



ゴールドウィン/撥水スプレー 1800円
布や革でも優れた撥水性を發揮する。水だけではなく油や油汚れもしっかり防く。①

長くつき合うための
便利なりペアグッズ
キャンプ道具は消耗品かもしれない。しかし、消耗品だからこそ長く使ってやりたい。少しのメンテナンスで長く使えるのなら、可能な限り修理して使おうではないか。ハレがそつであるように、長く使って味が出たキャンプ道具はやはりカッコいいものだ。ここで紹介するリペアグッズはほんの一部。28ページからのカタログページにはより多くのリペアグッズが載っている。そちらも参考にしてほしい。



アライテント/リペアシート 525円
テントやフライシートなどの補修用。必要な大きさにカットして使用する。キャンプ先を持って行きたい。③



モンベル/スモースライダー 700円
ウェアやテント、カバンなどのファスナーに塗るだけで滑りが良くなる優れたもの。③



アライテント/シームコート 504円
液体タイプの縫い目用防水剤。テントやシートだけでなくレインウェアでも使える。ひとつあると非常に便利③



リペアもアイデア勝負

ここで紹介したリペアグッズは決して高いものではないが、さらに安く済ませることもできる。例えばホームセンターで売っているシリコンも立派な防水のリペアグッズとなる。これは買いた!



ヴィクトリノックスダイヤモンドシャープナー
2520円 ナイフの切れ味を一時的に回復させる
タッチアップ道具 ②



EPI ガスブリッカ No.10 504円
先端の細い針をバーナーに入れて、詰まりを取り除く。3本セット。②



このモデルにはクリーニング機能がついている。ジェネレーターにつながるホースを外す。

炎が安定しない場合は
ジェネレーターを確認
ガンリン式のストーブはジェネレーター部分にススが溜まりやすい。ここはガンリンが酸化する場所で、炎が安定しない場合はここを疑ってみよう。クリーニング機能がついているタイプは、まずクリーニングを行ってみる。白ガンリンに比べて赤ガンリンはジェネレーターが詰まりやすく、詰まってしまうと使用は不可能なので交換となってしまう。



このワイヤーを引いたり押ししたりして、ジェネレーター内部をクリーニングする。



ジェネレーターの先端から出ているのが、内部をクリーニングするためのワイヤー。



ゴトクやバーナー部分のススや吹きこぼしはかなりの頑固。ここも真鍮ブラシで擦ってきれいにしよる。



各パーツのヨゴレを落とす。固着したヨゴレは真鍮ブラシで擦れば簡単に落とすことができる。



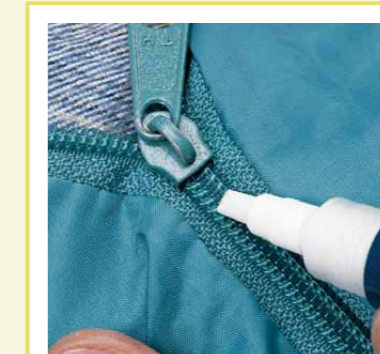
先端とリングの状態を確認する。どちらも磨耗や劣化している場合には交換する。



火力調整がうまくいかない時には、調整ネジの確認をする。六角ネジを外し、調整ネジを緩めていくと外せる。



切れないナイフは危険
切れないナイフは危険なものである。切れなくなってきたと感じたら、シャープナーで研いでやろう。通常の切れ味の回復であれば写真のようなタイプで簡単に研ぐことができる。もちろん歯がこぼれてしまったり本格的に切れなくなった場合は、砥石でしっかりと研ぐ必要がある。



ファスナーが硬い!
そんな時の強い味方
ファスナーの滑りが悪いのはストレスが溜まるものである。さらにそのまま使用していると突然壊れてしまった。ファスナー交換は素人が簡単にできるものではない。滑りが悪くなったから早めに潤滑油を塗ってやろう。専用のものが便利だが、家庭にある口ウでも問題ない。